令和5年度八尾市認知症地域支援推進員設置事業計画書

法人名	医療法人　清心会
認知症地域支援推進員名	山本　哲也（専任）、岩代　茜（兼務）

①地域におけるネットワーク体制構築の支援	
令和4年度課題	令和5年度　計画
・各機関、地域住民などと情報共有する機会は少なくなってきている為個別訪問等で地域課題等の抽出を行っている。 高齢者あんしんセンター、居宅介護支援事業所などを中心として、個別訪問で情報共有や啓発したが認知症ケアパス、オレンジティッシュの配布、配架は限定的になっている。 ・会議ではオンラインの活用はできてきているが、不慣れな部分や環境設備はまだまだ不十分である。 ・認知症疾患医療センターや認知症初期集中支援チームと連携してオンライン研修会を開催した	・高齢者あんしんセンターとの連携を強化し、個別支援、地域支援体制を継続して構築していく。 ・認知症疾患医療センター、認知症初期集中支援チームとの定期的な情報共有を行い、認知症支援ネットワークを構築していく。 ・地域ケア会議、専門職会議や地域の集まりへ参加や個別訪問等を通じて、地域課題を抽出することに努める。 ・認知症ケアパスの普及啓発を教室、講座、訪問等を通じて広く行っていく。 ・オレンジティッシュの配架、配布を行い、オレンジダイヤル、チームオレンジ活動の啓発、周知を行う

②地域における認知症高齢者やその家族を支援する相談支援体制の構築	
令和4年度課題	令和5年度　計画
・認知症サポーター養成講座は少人数で開催するも機会は限られ、声掛け体験は全く開催できなかった。オンライン開催などを検討必要 ・オレンジカフェ連絡会を開催し、コロナ禍でも開催できる方法の検討するが、再開は不透明である ・認知症サポーター活動機会を作る〝チームオレンジ〟構築に向けてメンバーの集いを開催。活動機会の確保や周知は課題。 ・認知症の家族支援に関する社会資源が不足 ・やおオレンジダイヤルは、相談件数増加している中家族支援の部分では社会資源の情報提供が難しい。 ・若年性認知症に関する相談件数も増えているが、社会資源不足が改善できていない。	・身近な地域で認知症の正しい知識や接し方の理解ができるように認知症サポーター養成講座開催の拠点作りを行い、市民キャラバンメイトの活躍機会も創出していく。 ・“やおオレンジダイヤル”を“認知症に関する気軽な相談窓口”として広く周知啓発する。 ・やおオレンジカフェの活動再開でくるようなカフェ間の情報共有及び協力体制を構築していく。 ・認知症本人の“活躍できる場所”“居場所”作り、地域の見守り体制構築に向けて、おれんじ教室やオレンジパトロールの実施地域を増やしていく。(各圏域毎が目標) ・地域関係者へ認知症支援に関する情報交換の機会をつくっていく。 ・認知症介護者家族交流会、若年性認知症介護者・本人交流会を開催していく。

③認知症ケア及び医療との連携体制構築に対する支援	
令和4年度課題	令和5年度　計画
・認知症疾患医療センター、認知症初期集中支援チームと常に連携が取れる体制を構築することで医療、介護連携が行いやすくなってきている。 ・かかりつけ医、認知症サポート医などへの啓発、周知が不十分で連携体制構築できていない。	・認知症疾患医療センター、認知症初期集中支援チームと連携し、やおオレンジカフェや認知症サポーター養成講座の際、専門相談ができるような体制を構築していく ・地域の医療機関へ認知症の相談窓口や役割等の周知、啓発を行っていく。

④事業の推進に関すること	
令和4年度課題	令和5年度　計画
・行政担当者と連携し、八尾市認知症施策に関する事業をスムーズに行うことができた。 ・認知症地域支援推進員の研修、連絡会へ参加し、活動の情報共有、交換ができた。 ・中河内地区認知症施策担当者と〝認知症をともに考える会〟を開催したが情報発信できていない ・専門職向けに認知症対応力向上研修を行った。 ・認知症本人、家族が主体となった認知症啓発講演会をおこなった。	・行政担当者と活動や取り組みの方向性や視点を共有できるように常に話し合いができうるようにしていく。 ・広域での認知症施策関連の情報共有、交換の機会を定期的に作っていくことで支援の幅を広げていく。 ・認知症対応力向上する機会の確保、専門分野ごとでの課題に応じた内容を検討していく。 ・認知症本人、家族が思いを発信できる機会をつくる。